災害から組合員と乗客の命を守るために！ 政策シンポジウム開催

JR総連は、3月9日、田町交通ビルにおいて、政策シンポジウム「災害から組合員と乗客の命を守るために」を開催した。会場には、組合員をはじめ、交運労協、国会議員、省庁や他産別の仲間など260人以上がつめかけた。

今回のシンポジウムは、昨年9月に発足したJR総連政策プロジェクトがこの間検討を続けていた「私たちの交通政策」と「災害から組合員と乗客の命を守るために」の二つの討議資料の中間報告と、各単組の闘いの報告、そして被災地の状況を共有することを目的として開催された。

シンポジウムは、JR総連東海林政策部長がプロジェクトの報告を行った後、JR北海道労組から「5・27事故以降の安全確立に向けた取り組みについて」、JR東労組大崎運輸区分会からは「災害から命を守り、より安全な乗務員職場の確立」と題し、それぞれ職場に立脚し、自らの手と足で安全対策や災害時の対策を模索するたたかいが報告された。

その後、群馬大学大学院の片田敏孝教授から「想定を超える災害にどう備えるか　大津波から生き抜いた釜石市の子どもたちに学ぶ」と題する特別講演を受けた。

片田教授は、災害に備える主体性を醸成する「姿勢の防災教育」の重要性を、想定外の大津波を生き残った釜石市の子どもたちの実際の行動から丁寧に説明した。さらに、JR北海道労組、JR東労組の報告を受けた上で、労働組合として従来よりも踏み込んだ、現実的な対策が重要であると提起された。この提起に、会場の組合員は責任の重さを実感した。

政策プロジェクトは、今後被災地の現地踏査などを経て、6月の定期大会で最終報告することとしている。今回のシンポジウムで得た成果と課題をさらに活かして、災害から組合員と乗客の命を守るための具体的で主体的な提言を完成させたいとしている。

群馬大学大学院　片田教授

JR北海道労組　工藤教宣部長

JR東労組大崎運輸区分会　伊勢田書記長

交運労協　細川事務局次長

2013 JR春闘を統一要求・統一闘争で闘い抜こう！

2013JR春闘の闘う意志を打ち固める！ 2013春闘セミナーを開催

JR総連は、2月22日、目黒さつき会館で、2013春闘セミナーを開催した。

武井委員長の主催者あいさつの後、出村書記長からJR春闘の方針提起が行われた。

今春闘は2月1日の第35回定期中央委員会で確認されたとおり、統一ベア2000円を掲げて闘う。その基本的な考え方と、具体的取り組みについて提起した。

その後、城南信用金庫の吉原毅理事長から「経済情勢と脱原発について」と題する講演を受けた。吉原理事長は、金融機関という立場から、「お金」の機能とそのことがもたらした弊害を分かりやすく説明した。さらに、同じ立場から、原発が経済的にも有害であることを丁寧に説明していただき、私たちもみずからが掲げた脱原発の方針の正しさを再認識し、その意志を新たにした。

講演の後、単組、5連協、労連の代表から現状の報告と決意表明を受け、全体で2013JR春闘を闘う決意を打ち固めた。

各単組・地協で創意工夫の取り組み！

春闘の山場を前にして、各単組・地協では、それぞれ創意工夫した取り組みを行っている。

地協では学習会や総決起集会を開催し、学習や他の単組との情報交換とともに、ともに闘う意志統一を行っている。

単組では、交渉に取り組む仲間を激励するために檄布行動を取り組んだり、各職場からファックス行動などを取り組んでいる。

また、JR総連は他産別や単組・労連への激励行動などに参加しながら、現場の苦闘と連帯するため活動している。

統一要求・統一闘争を掲げたJR春闘を、全組織一丸となって闘い抜こう！

JR北海道労組本部

東海地協

近畿地協

JR東労組本部

九州地協

一人ひとりの力を一つに結集！

2013春季生活闘争のヤマ場を目前に控えた3月6日、連合は「2013春季生活闘争・政策制度要求実現3・6中央集会」を東京・日比谷公会堂で開催した。2000人を超える組合員が結集し、JR総連も在京単組を中心に48名が参加した。

主催者を代表してあいさつした古賀会長は、まず、働く者が安心して消費を拡大できる政策を推進することこそが、経済再生の王道であると述べた。そして、今闘争より非正規共闘にすべての構成組織が参加していることから、最大のヤマ場である13、14日に、先行する組合が社会的責任を果たすために、ギリギリの努力を行って回答を引き出し、その結果を中小共闘、非正規共闘に繋げていこうと呼びかけた。

さらに、連合政策委員会の決意表明と自治労町田市図書館嘱託員労働組合から本集会の前段で開催された「非正規・パートもがんばる！交流集会」の報告と非正規労働者の処遇改善に取り組む決意表明があった。

集会後、参加者は銀座へのデモ行進でアピールを行った。

交通運輸労働者の生活と雇用を守る原点に返った闘いを！

3月8日、交運労協と連合「交通・運輸」部門連絡会の共催で、2013春季生活闘争勝利3・8総決起集会が開催された。集会には各構成組織から400名の組合員が結集し、JR総連からは45名が参加した。

藤井議長はあいさつで、まず、組合員の生活と雇用を守る闘い、安心して暮らせる社会の実現に向けて交運労協が先頭に立ち奮闘する決意を述べた。それとともに、交通基本法をはじめとした政策制度要求の実現をめざす取り組みと闘いを展開するとした。その上で、今春闘は、総力を結集し奮闘していることを示すことで、全国民に勇気と元気をもたらし、生活改善要求の春季生活闘争にしていかなければならないと訴えた。

続く、南雲連合事務局長は、未組織・パート労働者を含むすべての働く者とその家族の幸せに向けて、一人一人の力を結集しようと呼びかけた。

その後、2013年政策・制度要求の報告を行い、参加組合を代表して、私鉄総連、運輸労連、航空連合、サービス連合が決意表明を行った。

交運労協　藤井議長

男女間の賃金格差 是正など訴える

女性の政治的自由と平等のために行動する、連合3・8国際女性デー全国統一行動を、JR総連も連合の仲間とともに取り組んだ。

花束とメッセージ入りのティッシュを配布する街頭宣伝行動の後、中央集会にも参加した。JR総連は男女平等社会を実現するために今後も運動を進めていく。

国際女性デー（3月8日）とは…

1857年にニューヨークで起きた工場火災で多くの女性たちが亡くなったことに端を発し、低賃金・長時間労働に抗議する集会が3月8日に開かれました。その後、女性に対する差別撤廃や社会への平等参加、環境整備に貢献する日として位置付けられるようになり、国際女性年である1975年以来、国連の「国際女性デー」と定められました。賃金・労働条件の向上を表す「パン」と女性の尊厳・人権を表す「バラ」をシンボルに、世界中で女性たちが行動を展開しています。